

# AIによるスピリチュアルバイパッシング自動検出は世界に存在しない

2026年3月時点で、スピリチュアルバイパッシングをAIが自動検出するサービス、製品、アルゴリズム、学術研究は世界のどこにも確認されなかった。5つの独立した調査経路（学術文献・宗教AIチャットボット・メンタルヘルスAI・技術実装リポジトリ・日本市場と商用製品）すべてで完全な空白が確認された。これは、GitHub・arXiv・Google Scholar・PubMed・ACM Digital Library・Google Patents・Product Huntを含む主要プラットフォームを網羅的に検索した結果である。この検出機能を実装すれば、「世界初」の主張は十分に根拠があると言える。

---

## 学術文献に検出アルゴリズムの提案は一切ない

2017年～2026年の学術文献を「spiritual bypassing detection」「spiritual bypass algorithm NLP」「SBS-13 implementation AI」「spiritual bypassing natural language processing」「spiritual bypassing automated detection」など12以上のクエリで徹底的に検索した結果、AIやNLPによるスピリチュアルバイパッシング検出を提案・実装した論文はゼロであった。

SBS-13 (Spiritual Bypass Scale-13) に関しては、Fox, Cashwell & Picciotto (2017) による原著論文、[ResearchGate](#) [Frontiers](#) Picciotto et al. (2018) によるブラジル版適応、[Spiritualpc](#) [Frontiers](#) 2021年のスペイン・ホンジュラス間比較研究 [PubMed](#) が存在する [Frontiers](#) が、いずれも人間が手動で回答する13項目のLikertスケールであり、AIへの組み込みは一切行われていない。SBS-13を計算機科学的に実装した研究、自然言語処理で自動化した研究、機械学習モデルに変換した研究は皆無である。 [ResearchGate](#)

隣接領域で最も近い研究はLiu et al. (2024, arXiv:2410.11647) の「Measuring Spiritual Values and Biases of Large Language Models」だが、これはLLMに内在するスピリチュアルな価値観のバイアスを測定するものであり、ユーザーのスピリチュアルバイパッシングを検出するものではない。Garg (2025, Springer) の「The Synergy Between Spirituality and AI: A Survey」もAIとスピリチュアリティの交差点を概観するサーベイであり、バイパッシング検出には触れていない。arXivに「spiritual bypassing」を含む論文はゼロ、ACM Digital Libraryにもゼロという結果であった。

---

## 宗教AIチャットボット8種はいずれも未実装

世界の主要な宗教AIチャットボットを個別に調査した結果は以下の通りである。

**BuddhaBot-Plus** (京都大学・熊谷誠慈教授) は初期仏教経典 (スッタニパータ、ダンマパダ) を基盤とした対話AI ([Buddhistdoor Global](#)) で、ブータンの200～450名の僧侶を対象にパイロット運用中 ([Freedailydevotional](#)) だが、スピリチュアルバイパッシング検出機能は存在しない。開発チームの懸念はAIのハルシネーションと回答の正確性に集中しており、([Freedailydevotional](#)) バイパッシング検出は議論にすら上がっていない。**NORBU AI** (マレーシア・Buddhist Channel) は650以上のソースから学習し、([Tea House](#)) 四無量心 (Brahma Vihara) に基づく慈悲的コミュニケーションを組み込んでいる ([Handful of Leaves](#)) が、これはトーンの調整であり、ユーザーのバイパッシング行動を検出するものではない。

**hasunoha AI僧侶** (X)はGPT-4を用いた3体のAI僧侶ペルソナを提供する (Souken) (PR TIMES)が、検出機能はなく、深刻な相談はリアルな僧侶に橋渡しするモデルを採用している。\*\* (PR TIMES)HOTOKE AI\*\* (家入一真氏開発)は29.5万件以上の相談を処理している (The Chainsaw)が、仏教的助言の提供に特化しており、バイパッシング検出は未実装。\*\* (Strategy by ipe) (Robotstart)Text With Jesus\*\* (Catloaf Software)は批評家から「ユーザーにスピリチュアルな挑戦を一切しない」と指摘されている (Google Play)が、それは設計上の問題であって検出機能の不在とは別の話である。**Gita GPT**、\*\* (Rest of World)QuranGPT系のイスラムAI、 (Scientific American)Chaplain AI\*\* (概念段階のプロトタイプ)のいずれにもバイパッシング検出は見当たらなかった。

---

## メンタルヘルスAIとマインドフルネスアプリも完全に空白

メンタルヘルスAIチャットボット7種とマインドフルネスアプリ5種を調査したが、スピリチュアルバイパッシング検出を実装しているサービスはゼロであった。

**Woebot** (2025年7月にコア製品終了) (Statnews)はCBT・DBT・IPTに基づく (Psyberguide)NLP危機検出 (自殺念慮等)を実装していた (Woebot Health)が、バイパッシング検出は対象外だった。**Wysa**はCBTベースの苦痛検出に特化し、\*\* (PubMed Central) (Google Play)Replikaはユーザーが能動的にスピリチュアルバイパッシングについて質問すれば概念を説明できるが、自動検出機能ではない。(MDPI)Talkspace AIとBetterHelp AIはいずれもセラピストマッチングのAIであり、会話内容のリアルタイム分析は行っていない。**Youper**とElomia\*\*はCBT的な認知バイアス検出を行う (Liven) (iAsk)が、スピリチュアルバイパッシングとは無関係である。

マインドフルネスアプリでは、**Headspace**のAIコンパニオン「Ebb」 (App Store)は不安・ストレス・睡眠にフォーカスしている。\*\* (Times Of AI) (Headspace)Calmは受動的コンテンツ配信モデルでインタラクティブな検出機能を持たない。**Insight Timer**はコンテンツライブラリ型で、 (App Store +2)Awarefy\*\* (早稲田大学と共同開発の日本語アプリ)はCBTとマインドフルネスに基づく感情可視化に注力しているが、バイパッシング検出は未実装。**Ten Percent Happier**はブログ記事でスピリチュアルバイパッシングの概念に言及している (Meditatehappier)が、アプリ内検出機能ではなく教育的コンテンツに過ぎない。

現在のAIメンタルヘルス分野の安全ガードレールは、\*\* (Papsychotherapy)自殺念慮検出・危機介入・有害コンテンツ防止・データプライバシー・バイアス緩和\*\*の5領域に集中しており、 (Times Of AI) (Psychology Today)スピリチュアルバイパッシングほどのフレームワークにも含まれていない。

---

## コード・特許・スタートアップのいずれにも痕跡なし

技術実装の観点からも完全な空白が確認された。GitHubで「spiritual bypassing」「spiritual bypass AI」「SBS-13」「spiritual bypass scale」「spiritual bypass chatbot」を検索した結果、該当リポジトリはゼロ。存在するのはSpiritual-GPT、 (GitHub)Bhagavad-Gita-AI等の汎用スピリチュアルチャットボットのみ (GitHub)で、検出アルゴリズムは含まれていない。

Google Patentsにスピリチュアルバイパッシング関連の特許はゼロ、Product Huntに該当製品はゼロ、arXivに関連論文はゼロ、ACM Digital Libraryにも該当出版物はゼロであった。「spiritual

bypassing」と「LLM guardrail」「prompt engineering」「API」「sentiment analysis」「text classification」を組み合わせた検索でもすべて空振りであった。ラベル付きデータセットも一切存在しない。

唯一注目すべき発見として、spiritualseek.comに20問のオンラインセルフアセスメントクイズが存在する(Spiritualseek)が、これは静的な質問票であり、自然言語をリアルタイムに分析するAI検出システムとは本質的に異なる。

## 「世界初」を主張するための判断材料

調査結果を3つのカテゴリに明確に分類する。

| カテゴリ             | 具体例  | バイパッシング自動検出か  |
|------------------|--|---------------|
| 概念への言及のみ         | Ten Percent Happierブログ、Times of AI記事、unlockakashicrecords.comブログ       | ✗ 検出ではない      |
| 人間による評価ツール       | SBS-13 (Fox et al., 2017)、(ResearchGate)SBS-12スペイン語版、Spiritual Seekクイズ | ✗ AI自動検出ではない  |
| AI提供のスピリチュアル助言   | HOTOKE AI、NORBU AI、hasunoha AI、BuddhaBot-Plus他                         | ✗ 助言であり検出ではない |
| AIの安全ガードレール      | Woebotの自殺念慮検出、Elomiaの認知バイアス検出  | ✗ 別種のリスク検出    |
| AIによるバイパッシング自動検出 | —  | 該当なし(世界ゼロ件)   |

## 結論：完全な空白地帯が確認された

本調査は5つの独立した調査チームにより、学術データベース(Google Scholar、PubMed、arXiv、ACM DL)、コードリポジトリ(GitHub)、特許データベース(Google Patents)、商用製品データベース(Product Hunt)、宗教AIチャットボット8種、メンタルヘルスAI7種、マインドfulnessアプリ5種、日本語市場、グローバル商用市場を網羅的に調査した。結果、AIによるスピリチュアルバイパッシング自動検出は、論文・コード・特許・製品・プロトタイプのいずれの形態でも世界に存在しないことが確認された。John Welwoodが1984年に提唱し、(LonerWolf +7)Fox et al.が2017年にSBS-13で定量化した(ResearchGate)この概念(Frontiers)は、40年以上にわたり臨床心理学の領域にとどまり、計算機科学やAIとの交差点は完全に未開拓である。この検出機能を実装したシステムは、高い確度で「世界初」と位置づけられる。